

教育・研究業績書

<p>診療科名 越谷病院整形外科</p>		
<p><教員の紹介></p>		
教授 大 関 覚	講師 杉 本 一 郎	
准教授 飯 田 尚 裕	講師 竹 本 知 裕(学外派遣中)	
講師 東 村 隆(学外派遣中)	講師 安 村 建 介	
講師 木 家 哲 郎(学外派遣中)		
講師 佐 野 和 史		
<p>I 教育活動</p>		
<p>教育実践上の主な業績</p>	<p>年 月</p>	<p>概 要</p>
<p>① 教育内容・方法の工夫（授業評価を含む）</p>		
<p>1. 魅力ある講義</p>	<p>2004年5月～現在</p>	<p>講義においては、学ぶべき基本的事項、整形外科的な考え方をしっかりとおさえた上で、整形外科学の醍醐味を伝えるべく、当科の特徴である豊富な手術症例、特に全国から集まる難治例を多数紹介しながら、熱い授業を行っている。</p>
<p>2. 魅力あるBSL</p>	<p>2004年5月～現在</p>	<p>BSLでは実際に患者さんを担当し、指導医に教えられながら、術前カンファレンスでのプレゼンテーション、手術の助手、術後管理を通して整形外科の治療のダイナミズムを体験してもらう。</p>
<p>② 作成した教科書、教材、参考書</p>		
<p>1. 研修医用教材</p>	<p>2004年5月～現在</p>	<p>上肢、下肢、脊椎に分かれた研修医向けの教材を作成し使用している。基本的な診察法から各論のキーポイントまで、コンパクトにまとまっているがゆいところに手が届く、知識を増やし整理するのに最適な教材である。</p>
<p>③ 教育方法・教育実践に関する発表、講演・その他教育活動上特記すべき事項</p>		
<p>1. 他大学からの研修受け入れ</p>	<p>2004年5月～現在</p>	<p>当科が最も力を入れている創外固定を使用した複合組織再建術は全国の施設から研修希望があり、積極的に受け入れ、指導およびディスカッションを重ねている。</p>
<p>2. 当教室主催学会への参加症例</p>	<p>2004年5月～現在</p>	<p>直近では第34回足の外科学会を主宰したが、それに付随した第2回教育研修会には研修医はもちろん、卒業直近の学生にも参加を呼びかけ、学会の雰囲気味わうとともに、整形外科の最新の基礎知識を得る機会を与えるよう努力している。</p>

教育・研究業績書

診療科名	職名	氏名	
越谷病院整形外科	教授	大関 寛	大学院の研究指導担当資格 有
II 学会等および社会における主な活動			
1985年11月～現在	身体障害者福祉法指定医		
1987年1月～現在	義肢装具等適合判定医		
1988年3月～現在	日本整形外科学会認定医		
1991年2月～現在	日本整形外科学会スポーツ認定医		
III 研究活動			
【学位論文】			
【著 書】			
和文			
1. <u>大関寛</u> ：今日の整形外科治療指針 2005 (二ノ宮節夫、富士川恭輔、越智隆弘、国分正一、岩谷力 編) アキレス腱断裂、アキレス腱炎 (アキレス腱周囲炎) pp817-819, 医学書院 東京 2004.			
2. <u>大関寛</u> ：今日の治療指針 (山口徹、北原光夫 編) 足関節捻挫 (足関節靭帯損傷) pp745-746, 医学書院 東京 2005.			
3. <u>大関寛</u> ：足関節捻挫の手術療法 重傷度診断と手術療法の適応. 「実践アトラスでよくわかるスポーツ外傷・障害診断マニュアル」(青木治人 編) pp228-233, 全日本病院出版 東京 2005.			
4. <u>大関寛</u> ：今日の治療指針. (山口徹、北原光夫、福井次矢 編) 先天性内反足 pp770-771, 医学書院 東京 2006			
5. <u>大関寛</u> ：「整形外科KNACK&PITFALLS足の外科の要点と盲点」V. 外傷の治療-2 2) 踵骨骨折 2) 外側からのアプローチによる整復固定 p206-208 VI. 障害その他の治療-1 5. 先天性内反足 3) 距骨下関節全周解離術 p326-329 VII. 障害その他の治療-2 6. Freiberg病 (山本晴康 編) p358-361, 文光堂 東京 2006.			
6. <u>大関寛</u> ：足関節と靭帯損傷、足関節捻挫「再診整形外科学大系」第18巻 下腿、足関節、足部 (越智光夫、高倉義典 編) 第11章 pp348-356, 中山書店 東京 2006.			
7. <u>大関寛</u> ：踵骨骨折に対する観血的整復固定術：[下肢の骨折・脱臼]手技のコツ&トラブルシューティング OS Now Instruction 3 pp259-270, Medical View 東京 2007.			
8. <u>大関寛</u> ：小児の骨の発達とその異常性 (藤枝憲二監修 田中弘之編集) IV骨疾患の治療 3. 骨延長術 pp281-286, 診断と治療社 東京 2008.			
【原 著】			
欧文			
1. Togawa S, Yamami N, Nakayama H, Mano Y, Ikegami K, <u>Ozeki S</u> : The validity of the mangled extremity severity score in the assessment of upper limb injuries. J Bone Joint Surg 87-B:1516-1519, 2005.			
2. Niki H, Aoki H, Inokuchi S, <u>Ozeki S</u> , Kinoshita M, Kura H, Tanaka Y, Noguchi M, Nomura S, Hatori M, Tatsunami S: Development and reliability of standard rating system for outcome measurement of foot and ankle disorders I: development of standard rating system. J Orthop Sci 10:457-465, 2005.			
3. Niki H, Aoki H, Inoguchi S, <u>Ozeki S</u> , Kinoshita M, Kura H, Tanaka Y, Noguchi M, Nomura S, Hatori M, Tatsunami			

S:Development and reliability of a standard rating system for outcome measurement of foot and ankle disorders II:interclinician and intraclinician reliability and validity of the newly established standard rating scales and Japanese orthopaedic Association rating scale. J Orthop Sci 10:166-474, 2005.

4. Ozeki S, Kitaoka H, Uchiyama E, Luo Z-P, Kaufman K, An K-N: Ankle ligament tensile forces at the end points of passive circumferential rotating motion of the ankle and subtalar joint complex. Foot and Ankle Int. 27:965-969 2006.
5. Ozeki S, Sano K, Okuda T, Aoki R, Kimura K: Usefulness of vascular bundle interposition of the descending branch of the lateral vessels for free flap reconstruction of the calvarial defect, Microsurg. 28:552-554, 2008.
6. Ozeki S, Sano K, Kohakura Y, Kimura K: Atypical triggering at the wrist due to intratendinous infiltration of tophaceous gout. Hand 2008 (EPub).
7. Ozeki S, Sano K, Kimura K, Hyakusoku H: Relationship between sensory recovery and advancement distance of oblique triangular flap for fingertip reconstruction. J Hand Surg. 33A(7):1088-92, 2008.
8. Ozeki S, Sano K, Kimura K: Delayed extended "mid-thenar" flap for fingertip avulsion injury. 7th congress APFSSH. 31-35, 2008.

和文

1. 田島幹大、大関寛、木家哲郎、竹本知裕、反町毅、阿藤晃久、野原裕：重度脊柱後側彎変形に対するイリザロフ法の応用 Dokkyo J Med Science 31:161-166 2004.
2. 垣花昌隆、大関寛、永井秀明、野原裕：小児股関節疾患に対する単支柱型創外固定器の応用 日小整会誌 13:81-85 2004.
3. 高野研一郎、大関寛、竹本知裕、根岸崇興、菅野吉一、野原裕：人工膝関節全置換術後の大腿骨顆上骨折に対するIlizarov法による治療 東日整災会誌 16:16-20 2004.
4. 安部聡弥、大関寛、杉本一郎、根岸崇興、垣花昌隆、野原裕：上腕骨骨幹部骨折に対する片側創外固定法 骨折 26:165-168 2004.
5. 大関寛、根岸崇興、鈴木航、高野研一郎、竹本知裕、野原裕：遊離ハムストリング腱による解剖学的足関節外側靭帯再建術の実際と治療成績 日足外会誌 25:138-142 2004.
6. 大関寛、安部聡弥、加藤寿陽：【高齢者大腿骨近位部骨折に対する予防と治療】大腿骨近位部骨折の長期生命予後とその影響因子 関節外科 23:1538-1541 2004.
7. 大関寛、辻野淳：【整形外科医に必要なスポーツ医学の知識】現場での対応・診断基準 足関節捻挫の重傷度診断と治療法の選択 整・災外 48:505-510 2005.
8. 安部聡弥、大関寛、竹本知裕、垣花昌隆、峯研、野原裕：関節固定術後に全人工関節置換術を行った2例 日人工関節会誌 35:239-240 2005.
9. 大関寛、山崎修司、宮城登：治療成績からみた先天性内反足の観血術式選択 先天性内反足に対する距骨下関節全周解離術の術後7年以上の成績 日小整会誌 14:196-201 2005.
10. 反町毅、大関寛：外反母趾に対するバニオン切除を行わない第1中足骨基部骨切り術 日足外会誌 26:95-100 2005.
11. 大関寛、Kitaoka Harold B, An Kai-Nan：踵腓靭帯機能と不全状態の徒手検査法 日足外会誌 26:85-90 2005
12. 阿藤晃久、大関寛、野原裕：Ilizarov創外固定器を用いた脛骨高原骨折の治療 日創外固定・骨延長会誌 16:69-72

2005.

13. 大関覚：私のすすめる踵骨骨折の治療 踵骨関節内骨折に対する観血的整復固定術 日整会誌 79:38-41 2005.
14. 大関覚：小児整形外科疾患の現状と展望 四肢延長・変形矯正術における現状と今後の展望 さまざまな上肢・下肢疾患に対する創外固定の応用 整形外科 57-4:475-786 2006.
15. 大関覚：【成長期の脊椎・下肢スポーツ外傷と障害の対応】成長期の足底腱膜炎、有痛性外脛骨の診断と治療 骨・関節・靭帯 19-4:335-340 2006.
16. 青木治人、井口傑、大関覚、木下光雄、倉秀治、田中康仁、仁木久照、野口昌彦、野村茂治、羽鳥正仁、日本足の外科治療成績判定基準検討委員会：日本足の外科学会 足部・足関節治療成績判定基準(日本語版) 日本足の外科学会雑誌 27-2:1-6 2006.
17. 大関覚：【スポーツ障害】診断・治療・リハビリテーション 足・総合リハビリテーション 34-9:853-860 2006.
18. 大関覚：【足の疾患 私の外来診療のコツ】小児の足部障害 先天性内反足 Orthopaedics 20-11:1-5 2007.
19. 安村建介、増田武志、菅野大己、春藤基之、橋本智久、金子智則、大関覚：Cementless stemを用いた全人工関節置換手術の近位大腿骨骨密度の変化 北海道整形災害外科学会雑誌 49-2:69-74 2008.
20. 大関覚：【事例から学ぼう！創外固定の自己管理を支えるかかわり】創外固定の基礎知識 創外固定器の種類と仕組み 整形外科看護 13-8:773-779 2008.
21. 大関覚：【前足部変形の治療】Freiberg病の治療 Orthopaedics 21-12:57-61 2008.
22. 菅野吉一、竹本知裕、安村建介、木村和正、大関覚：関節リウマチの疾患活動性 3 検査とDAS28 の比較 リウマチ科 40-6:677-682 2008.
23. 安村建介、大関覚：脛骨天蓋粉碎骨折におけるイリザロフ創外固定器の治療成績 骨折 30-4:710-715 2008.
24. 佐野和史、木村和正、大関覚：ハンドセラピスト不在下での屈筋腱損傷早期自動運動療法の試み 日本手の外科学会雑誌 25-2:140-143 2008.
25. 佐野和史、木村和正、大関覚：Delayed extended midthenar flapと 1st web flap 区域皮弁の工夫 日本手の外科学会雑誌 25-3:262-265 2008.
26. 大関覚：【アキレス腱損傷の治療 最新情報とスタンダード】アキレス腱断裂治療の問題点と新しい治療法 Orthopaedics 22-1:65-71 2009.
27. 杉本一郎、大関覚：【イリザロフ法のその後の展開】新鮮骨折に対するイリザロフ法 整形・災害外科 52-3:229-234 2009.
28. 安村建介、大関覚：【研修医が知っておきたい骨折治療マニュアル】下肢・脛骨遠位端骨折 関節外科 28:203-212 2009.

【症例報告】

和文

1. 保坂幸司、大関覚、竹本知裕、野原裕、野島孝之：下腿に発生した先天性線維肉腫の1例 日足外会誌 25:143-147 2004.
2. 安部聡弥、大関覚、竹本知裕、垣花昌隆、峯研、野原裕：関節固定術後に全人工股関節置換術を行った2例 日本人工関節学会誌 35:239-240 2005.

【総説】

和文

1. 大関覚：足関節捻挫の後遺症 日本医事新報 4207号 pp89 2004.
2. 大関覚：【扁平足障害の病態と治療の現況】成人の外傷性扁平足障害の病態と治療 整・災外 47:1167-1175 2004
3. 大関覚、辻野淳：【整形外科医に必要なスポーツ医学の知識】現場での対応・診断基準 足関節捻挫の重症度診断と治療法の選択 整・災外 48:505-510 2005.
4. 反町毅、飛永敬志、大関覚：【足・足関節部スポーツ障害・外傷リハビリテーション実践マニュアル】足関節外側靭帯不全に対する遊離ハムストリング腱を用いた解剖学的靭帯再建術とリハビリテーション MEDICAL REHABILITATION 61:17-25 2005.
5. 大関覚：【新鮮・陳旧性足関節捻挫の診断と治療】三角靭帯損傷の診断と治療 Orthopaedics 18:55-59 2005
6. 大関覚：小児整形外科疾患の現状と展望 四肢延長・変形矯正術における現状と今後の展望 さまざまな上肢・下肢疾患に対する創外固定の応用 整形外科 57:475-486 2006.
7. 大関覚：【成長期の脊椎・下肢スポーツ外傷と障害の対応】成長期の足底腱膜炎、有痛性外脛骨の診断と治療 骨・関節・靭帯 19:335-340 2006.
8. 青木治人、井口傑、大関覚、木下光雄、倉秀治、田中康仁、仁木久照、野口昌彦、野村茂治、羽鳥正仁：日本足の外科学会 足部・足関節治療成績判定基準(日本語版) 日本足の外科学会治療成績判定基準検討委員会 日足外会誌 27:1-6 2006.
9. 大関覚、飛永敬志：【スポーツ障害】診断・治療・リハビリテーション 足総合リハビリテーション 34:853-860 2006.

【その他】

講演

1. 大関覚：先天性内反足の治療 即死間小児外傷研究会 2006.
2. 大関覚：四肢外傷と外傷後後遺症に対する創外固定の応用 信州大学 2007.
3. 大関覚：創外固定を応用した四肢外傷と変形の治療 神奈川整形外科医会 2007.
4. 大関覚：下肢の関節内骨折・関節近傍骨折の治療 旭川整形外科医会 2007.
5. 大関覚：Distraction Histiogenesisを応用した四肢再建術 奈良整形外科医会 2007.
6. 大関覚：骨軟部腫瘍切除後の四肢機能再建法 埼玉整形外科医会 2007.
7. 大関覚：獨協集談会 2007.
8. 大関覚：埼玉整形外科医会 2007.
9. 大関覚：足関節・距骨下関節機能と足関節靭帯再建術 札幌整形外科合同研修会 2007.
10. 大関覚：外反母趾に対する保存療法と手術療法 札幌整形外科懇話会 2007.
11. 大関覚：高齢者骨折の治療 誠和病院 2008.
12. 大関覚：救急整形外科と足部外傷 救命救急整形外科学会 2008.
13. 大関覚：創外固定による足部変形矯正 奈良研修会 2008.
14. 大関覚：Achondroprasia/Hypochondroplasia. Achondroprasia研究会 2008.
15. 大関覚：足部外傷治療と遺残変形の形成 東北整形災害外科学会 2008.
16. 大関覚：足部腫瘍と類似疾患 熊谷
17. 大関覚：足関節・距骨下関節機能と足関節靭帯再建術 昭和大学 2008.
18. 大関覚：足部・足関節外傷の治療における落とし穴 上尾整形外科 2008.

19. 大関寛：サッカードクター 2008.
20. 大関寛：台湾整形外科学会 2008.
21. 大関寛：日本関節病学会 2008.
22. 大関寛：大江戸足の外科 2009.
23. 大関寛：愛知大学佐藤教授からの依頼 2009.
24. 大関寛：Anchondroplasia研究会 2009.
25. 大関寛：創外固定を応用した四肢外傷と障害の治療 秋田県整形外科医会 2009.
26. 大関寛：足部足関節の外傷・障害に対する創外固定の応用 手稲整形外科懇話会 2009.

教育・研究業績書

講座名	職名	氏名	
越谷病院整形外科	准教授	飯田 尚裕	大学院の研究指導担当資格 有
Ⅱ 学会等および社会における主な活動			
1989年5月～現在	日本整形外科学会		
1994年9月～現在	日本小児整形外科学会		
1995年5月～現在	日本脊椎脊髄病学会		
1995年11月～現在	日本側弯症学会		
2008年11月～現在	日本腰痛学会評議員		
Ⅲ 研究活動			
【学位論文】			
【著 書】			
和文			
1. <u>飯田尚裕</u> 、野原裕:腰椎変性疾患における固定術の適応を問う-PLF:インストゥルメント併用・非併用 両手術の経験から-。鈴木信正、中原進之介、野原裕編、腰椎変性疾患 基本知識とチェックポイント メジカルビュー社,pp266-271, 2004.			
2. 野原裕、 <u>飯田尚裕</u> :病態と診断 疾患別病態と診断 多椎間障害-変性側弯。鈴木信正、中原進之介、野原裕編、腰椎変性疾患 基本知識とチェックポイント メジカルビュー社,pp92-97, 2004.			
3. <u>飯田尚裕</u> 、鈴木信正:手術の実際 基本術式の要点と盲点 脊柱変形矯正術。芝 啓一郎編、整形外科Knack & Pitfalls 脊椎外科の要点と盲点:胸腰椎 文光堂,pp164-169, 2006.			
4. <u>飯田尚裕</u> 、野原裕:治療 手術療法 instrumentation手術。戸山 芳昭編、最新整形外科学体系 第12巻 胸腰椎・腰椎・仙椎 中山書店,pp165-174, 2006.			
【原 著】			
欧文			
1. Nohara Y, Taneici H, Ueyama K, Kawahara N, Shiba K, Tokuhashi Y, Tani T, Nakahara S, <u>Iida T</u> : Nationwide survey on complications of spine surgery in Japan. Journal of Orthopaedic Science 9:424-433, 2004.			
和文			
1. <u>飯田尚裕</u> 、浅野聡、木家哲郎、垣花隆之、野原裕:間欠性陰茎勃起を伴った腰部脊柱管狭窄症手 術例の検討。東日本整災会誌 16:230-234, 2004.			
2. 木家哲郎、浅野聡、 <u>飯田尚裕</u> 、阿藤晃久、金子智則、野原裕:胸椎後縦靭帯骨化症に対する前方除圧固定術の成績。東日本整災会誌 16:585-588, 2004.			
3. 野原裕、 <u>飯田尚裕</u> 、浅野聡、木家哲郎:脊椎腫瘍に対する広範切除固定術の治療成績。日本整形外科学会誌 78:26-30, 2004.			
4. <u>飯田尚裕</u> 、鈴木信正、河野克己:脊柱側彎症手術の長期成績-術後 20 年以上経過例における臨床評価-。脊柱変形 22:178-182, 2007.			
【症例報告】			

【総 説】

【そ の 他】

和文

1. 飯田尚裕、野原裕:手術療法の考え方と進め方 (3)腰部脊柱管狭窄症の手術治療. リウマチ科 34,pp645-652, 2005.
2. 飯田尚裕:特集 比較でわかる腰椎 2 大疾患 腰部脊柱管狭窄症と腰椎椎間板ヘルニア 狭窄症とヘルニアの共通点と相違点 病態生理. 整形外科看護 11,pp639-643, 2006.
3. 飯田尚裕、鈴木信正:特集 後弯症(胸椎・腰椎)の症状と治療 後弯症とはー診断と治療の基本ー. 骨・関節・靭帯 19: 599-609, 2006.
4. 飯田尚裕:新しい医療技術 新しい素材による脊椎締結法. 整形・災害外科 50,pp1013-1017, 2007.
5. 飯田尚裕:長く歩けない(間欠跛行)のは腰から来ている(腰部脊柱管狭窄症)かもしれません. 東京新聞「ショッパー」9月10日発行,2008.

教育・研究業績書

診療科名	職名	氏名	
越谷病院整形外科	講師	東村 隆	大学院の研究指導担当資格 無
Ⅱ 学会等および社会における主な活動			
1987年 3月～現在	日本整形外科学会員		
2003年 4月～現在	日本リハビリテーション医学会員		
2003年 10月～現在	日本脊椎脊髄病学会員		
	日本側弯症学会員		
Ⅲ 研究活動			
【学位論文】			
【著 書】			
【原 著】			
和文			
1. 東村 隆：脊椎骨折の診断と識別. 骨粗鬆症治療 15：274-279, 2006.			
2. 東村 隆：リマプロスト投与が著効した腰部脊柱管狭窄症の1例. Pharma medical, 22:103-106, 2004.			
3. 東村 隆, 木家 哲郎, 田島 幹大：長期間放置された高度頸部痛を主訴とした頸椎間板ヘルニア（脱出型）に対する治療経験. 埼玉県医学雑誌, 43:330-335, 2008.			
【症例報告】			
和文			
1. 東村 隆, 南本 浩之：頸椎椎弓形成術後高度翼状頸を来し治療に難渋している1例. 第43回日本リハビリテーション医学会, 東京, 2006.			
【総 説】			
和文			
1. 東村 隆：腰部脊柱管狭窄症-高齢者のインフォームドコンセントについて-. 月刊武州路, 367:64-65, 2004.			
2. 東村 隆：腰椎椎間板ヘルニア. 月刊武州路, 378:64-65, 2005.			
3. 東村 隆：脊柱側弯症. 月刊武州路, 391:52-53, 2006.			
4. 東村 隆：腰痛の発症メカニズム. 月刊武州路, 403:52-53, 2007.			
5. 東村 隆：頸椎症について. 月刊武州路, 411:36-37, 2007.			
6. 東村 隆：痛みについて-基本メカニズムを中心に-月刊武州路, 421:36-37, 2008.			
【そ の 他】			
和文			
1. 東村 隆：倫理観を基盤とした病院経営戦略を全職員で実践することこそ肝要. 新医療, 409:52-54, 2009.			

教育・研究業績書

診療科名	職名	氏名	
越谷病院整形外科	講師	木家 哲郎	大学院の研究指導担当資格 無
Ⅱ 学会等および社会における主な活動			
日本整形外科学会会員	東日本整形災害外科学会会員		
日本側弯症学会会員	(日本職業・災害医学会)		
日本脊椎脊髄病学会会員	関東整形災害外科学会会員		
日本脊髄障害医学会会員	日本脊椎インストラメンテーション学会会員		
日本腰痛病学会会員			
Ⅲ 研究活動			
【学位論文】			
【著 書】			
【原 著】			
和文			
1. 野原裕, <u>木家哲郎</u> , 飯田尚裕: 腰部脊柱管狭窄症(後側弯症)に対する矯正固定術の長期成績と問題点. 脊椎脊髄 17: 217-223, 2004.			
2. 野原裕, 飯田尚裕, 浅野聡, <u>木家哲郎</u> : 脊柱腫瘍に対する広範囲切除固定術の治療成績. 日本整形外科学会雑誌 78: 706-710, 2004.			
3. 飯田尚裕, 浅野聡, <u>木家哲郎</u> , 垣花隆之, 野原裕: 間欠性陰茎勃起を伴った腰部脊柱管狭窄症手術例の検討. 東日本整形災害外科学会雑誌 16: 230-234, 2004.			
4. 中村豊, 浅野聡, <u>木家哲郎</u> , 飯田尚裕, 野原裕: 腰椎変形すべり症に対する pedicle screw system 併用後側方固定術の治療成績. 東日本整形会誌 16, 2004.			
5. 安倍聡弥, <u>木家哲郎</u> , 浅野聡, 飯田尚裕, 中村豊, 野原裕: 神経繊維腫症による脊柱変形に対する脊椎固定術の治療経験. 日本側弯症学会 20: 152-155, 2005.			
【症例報告】			
【総 説】			
【そ の 他】			
講演			
1. <u>木家哲郎</u> : 腰部疾患～腰部脊柱管狭窄症の診断と治療. 春日部医師会勉強会. 春日部 2005.			
2. <u>木家哲郎</u> , 中村豊, 野原裕: 頸髄症後方術後のC5 麻酔は神経根性である-椎間孔拡大術追加例の結果から. 別紙整形外科 50: 13-17, 2006.			

教育・研究業績書

診療科名	職名	氏名	
越谷病院整形外科	講師	佐野 和史	大学院の研究指導担当資格 無
Ⅱ 学会等および社会における主な活動			
1992年 6月～現在	日本形成外科学会会員		
1996年 4月～現在	日本整形外科学会会員		
1996年 4月～現在	日本マイクロサージャリー学会員		
1998年 5月～現在	国際形成外科学会会員		
2001年 2月～現在	日本肘関節外科学会会員		
2001年 2月～現在	東日本手の外科研究会員		
2001年 10月～現在	日本手の外科学会会員		
2004年 10月～現在	世界マイクロサージャリー学会員		
2006年 10月～現在	日本マイクロサージャリー学会評議員		
Ⅲ 研究活動			
【学位論文】			
【著 書】			
欧文			
1. <u>Sano K</u> , Hallock GG, Rice D.C: The medial sural perforator flap, In.: Perforator flaps. Ed. by Hallock GG, QMP, Inc, St. Louis, MO, pp679-688, 2005.			
和文			
1. <u>佐野和史</u> : 指のきずの治療と管理—指の治療で気をつけること—. 百束比古編、アトラス: 創傷(きず)のきれいな治し方 全日本病院出版、pp38-42, 2006.			
2. <u>佐野和史</u> 百束比古: 上肢・手の挫滅創の一次処置. 菅又章編、外傷形成外科 克誠堂出版、pp103-109, 2007.			
3. <u>佐野和史</u> 百束比古: デグロービング損傷. 菅又章編、外傷形成外科 克誠堂出版、pp110-114, 2007.			
【原 著】			
欧文			
1. Hallock GG, <u>Sano K</u> : The medial sural medial gastrocnemius perforator free flap: an “ideal” prone position skin flap. Ann Plast Surg. 52:184-187, 2004.			
2. Takka S, Doi K, Hattori Y, Kitajima I, <u>Sano K</u> : Proposal of new category for congenital unilateral upper limb muscular hypertrophy. Ann Plast Surg. 54:97-102, 2005.			
3. <u>Sano K</u> , Doi K, Hattori Y: Double-strand suturing fixation technique for treatment of acute volar plate avulsion fracture of the base of the middle phalanx: Ann Plast Surg. 55:542-544, 2005.			
4. <u>Sano K</u> , Hyakusoku H, Tanuma K: Clinical reappraisal of the segmental pectoralis major turn-over flap for coverage of the local mediastinal wound: Scand J Plast Reconstr Surg Hand Surg. 39:290-294, 2005.			
5. <u>Sano K</u> , Aoki S, Hyakusoku H: Delayed extended “midthenar” flap for reconstruction of total fingertip			

avulsion injury and proposal of ideal postoperative immobilization for a palmar flap. Ann Plast Surg. 58: 116-119, 2007.

6. Sano K, Ozeki S, Kimura K, Hyakusoku H: Relationship between sensory recovery and advancement distance of oblique triangular flap for fingertip reconstruction. J Hand Surg. 33A:1088-1092, 2008.
7. Sano K: The Japanese experience with endoscopic carpal tunnel release. Semin Plast Surg 22:37-41, 2008.

和文

1. 佐野和史、Hallock GG、百束比古、馬渡玲子、鈴木裕彦：遊離内側腓腹筋穿通枝皮弁による四肢皮膚軟部組織欠損の治療。日本マイクロサージャリー学会誌 18:359-363, 2005.
2. 佐野和史、土井一輝、服部泰典：拇指CM関節症治療のメタアナリシス。日手会誌 22:87-92, 2005.
3. 佐野和史、木村和正、大関覚：Delayed extended midthenar flapと1st web flap。日手会誌 25: 262-265, 2008.
4. 佐野和史、木村和正、大関覚：ハンドセラピスト不在下での屈筋腱損傷早期自動運動療法の試み。日手会誌 25:140-143, 2008.

【症例報告】

欧文

1. Sano K, Hallock GG, Hamazaki M, Daicyo Y: The perforator based conjoint (Chimeric) medial sural medial gastrocnemius flap. Ann Plast Reconstr Surg. 53:588-592, 2004.
2. Sano K, Yoshizu T, Maki Y, Tsubokawa N: Easy-removal “ribbon-knot suturing” for pediatric wound care. Plast Reconstr Surg. 116:694-695, 2005.
3. Sano K, and Hyakusoku H: Does bone deformity of the distal phalanx undergo remodeling after removal of a congenital ectopic nail?: a case with periodic radiographic follow-up. J Nippon Med Sch. 73:332-336, 2006.
4. Sano K, Doi K, Hattori Y: Two rare cases of pseudogout (calcium pyrophosphate dehydrate crystal deposition disease) in the metacarpophalangeal and proximal interphalangeal joint. J Jpn PRS. 26:272-275, 2006.
5. Sano K, Hallock GG, Ozeki S, Suzuki H, Mawatari R, Yoshino K, Hamazaki M: Devastating massive knee defect reconstruction using the cornucopian chimera flap from the subscapular axis: two case reports. J Reconstr Microsurg. 22:25-32, 2006.
6. Sano K, Suzuki H: Reinforcement of coracoacromial ligament transfer for severe acromioclavicular dislocation using the suture anchor and the hook plate (results of cases). Dokkyo J Med Sci. 35:51-56, 2008.
7. Sano K, Okuda T, Aoki R, Kimura K, Ozeki S: Usefulness of vascular bundle interposition of the descending branch of the lateral femoral vessels for free flap reconstruction of the calvarial defect. Microsurg. 28:552-554, 2008.
8. Sano K, Aoki S, Kitta E, Hagiwara Y, Hyakusoku H: Atypical ulnar tunnel syndrome accompanied by sensory disturbance of the dorsal sensory branch of the ulnar nerve: a case report. Scand J Plast Reconstr Surg Hand Surg. 43:117-119, 2009.

9. Sano K, Kohakura Y, Kimura K, Ozeki S: Atypical triggering at the wrist due to intratendinous infiltration of tophaceous gout. Hand 4:78-80, 2009.
10. Sano K, Hashimoto T, Kimura K, Ozeki S: A rare nodular fasciitis involving the finger: a case report. Hand 2009(Epub ahead of print).

和文

1. 青木雅代、佐野和史、赤石諭史、岩切致、百束比古：遊離広背筋皮弁を用いて再建した上肢重度褥瘡の治療経験。日本じょくそう学会誌:8 586-590, 2006.
2. 橋田絵里香、佐野和史、青木伸峰、百束比古：仙骨部褥瘡よりフルニエ壊疽に進展し死亡にいたった1例。日本じょくそう学会誌:8 600-604, 2006.
3. 加納稔子、中島泰、今城麻美、谷村恭子、田村秀樹、石井新哉、亀谷純、杉原仁、及川眞一、岡島史宣、青木雅代、佐野和史、百束比古：糖尿病足壊疽の改善に伴ってIGF-1の上昇を認めた先端巨大症の一例。日本内分泌学会誌:82 補号 88-90, 2006.

【総 説】

欧文

1. Sano K: The Japanese experience with endoscopic carpal tunnel release. Semin Plast Surg 22:37-41, 2008.
2. Sano K, Kimura K, Ozeki S: Delayed extended “mid-thenar” flap for fingertip avulsion injury. 7th Congress APFSSH. 31-35, 2008.

和文

1. 百束比古、佐野和史、青木律、有吉雅徳：皮弁の選択－遊離皮弁か有茎皮弁か－。鳥居修平編 PEPARS17 特集／遊離皮弁による四肢再建のコツ 全日本病院出版会、48-58, 2007.

【そ の 他】

欧文

1. Uysal AC, Lu F, Mizuno H, Ogawa R, Vinh VQ, Sano K, Hyakusoku H: Defining vascular supply and territory of thinned perforator flaps: Part I. Anterolateral thigh perforator flap. Plast Reconstr Surg. 118:288-289, 2006.
2. Uysal AC, Mizuno H, Sano K, Iwakiri I, Hyakusoku H: Bone exposure in the leg: is a free muscle flap necessary? Plast Reconstr Surg. 118:286-287, 2006.

教育・研究業績書

診療科名	職名	氏名	
越谷病院整形外科	講師	杉本 一郎	大学院の研究指導担当資格 無
Ⅱ 学会等および社会における主な活動			
日本整形外科学会員		日本救急医学会員	
骨折治療学会員		日本集中治療学会員	
足の外科学会員		JABO	
最小侵襲外科学会員		日本外傷セミナー (JOTS) 世話人	
日本外科学会員		整形外傷セミナー (EOTS) 世話人	
Ⅲ 研究活動			
【学位論文】			
【著 書】			
【原 著】			
和文			
1. 安倍聡弥, 大関寛, <u>杉本一郎</u> , 根岸崇興, 垣花隆之, 野原裕: 上腕骨骨幹部骨折に対する片側創外固定法骨折 26:165-168, 2004.			
【症例報告】			
【総 説】			
【そ の 他】			
講演			
1. 第2回北関東外傷セミナー 大宮, 2008.			
2. JOTS 日本外傷セミナー 2008.			
3. 埼玉県救命士養成所講義 “外発外傷, 骨盤骨折, スポーツ外傷” 2008.			
4. 関東外傷研究会 骨盤骨折&ハンズオン講演 昭和大藤ヶ丘病院 2008.			
5. JABO 骨盤骨折講演 2008.			
6. 埼玉県救命士養成所講義 “外発外傷, 骨盤骨折, スポーツ外傷” 2009.			
7. JOTS 講演 鹿児島 2009.			
8. 埼玉骨折研究会講演 世話人 大宮 2009.			
講義			
1. JOTS 講義 「コンパートメント症候群の治療」 2009.			

教育・研究業績書

診療科名	職名	氏名	
越谷病院整形外科	講師	竹本 知裕	大学院の研究指導担当資格 無
Ⅱ 学会等および社会における主な活動			
2009年2月～	産業医		
2007年6月～2009年5月	埼玉県社会保険支払基金審査委員		
	日本整形外科学会員	日本股関節学会員	
	東日本整形災害外科学会員	日本人工関節学会員	
	関東整形災害外科学会員	日本足の外科学会員	
Ⅲ 研究活動			
【学位論文】			
【著 書】			
【原 著】			
和文			
1. <u>竹本知裕</u> 、安部聡弥、大関覚、垣花昌隆、峯研、野原裕:関節固定術後に全人工股関節置換術を行った2例 日本人工関節学会誌 35:239-240, 2005.			
2. <u>竹本知裕</u> 、平田亜紀子、阿部美千代、本田絵海、鈴木史子、佐藤澄子、飛永敬志、高野隆司、香取通浩:Hip joint, vol. 32, 63-67, 2006.			
3. <u>竹本知裕</u> 、安村建介、大山安正、菅野吉一、大関覚:セラミック人工関節術後10年以上の臨床成績 日本人工関節学会誌 38:430-431, 2008.			
【症例報告】			
【総 説】			
和文			
1. <u>竹本知裕</u> :浅草寺病院健康カルテ「骨がもろくなるということ」浅草寺1・2月号(567号):44-46, 2009.			
【そ の 他】			
講義			
獨協医科大学3学年「運動器疾患」,骨盤・股関節:平成19年度、平成20年度			
獨協医科大学越谷病院臨床研修指導医,平成16年度、17年度、18年度			
埼玉県立大学3学年「小児看護」,骨関節疾患:平成16年度、17年度、18年度、19年度			
講演			
1. <u>竹本知裕</u> :骨粗鬆症:最新の知見 ～明日からの治療のために～ 蓮田市医師会学術講演会 2005.			
2. <u>竹本知裕</u> :骨粗鬆症:最新の知見 武田薬品工業(株)越谷営業所勉強会 2005.			
3. <u>竹本知裕</u> :人工関節置換の流れ～Charnley温故知新～第6会獨協医大越谷病院整形外科教室集談会 2006.			

4. 竹本知裕:50 肩ってなんだ? 地位馬券接骨師会北総支部学術講演会 2006.
5. 竹本知裕:整形外科医の現実的関節リウマチの治療VS生物学的製剤を使用した治療 田辺製薬社内講演 2007.
6. 竹本知裕:「整形外科外来における骨粗鬆症治療の実際」 エーザイ(株) 城東コミュニケーションオフィス勉強会 2008.
7. 竹本知裕:「人工股関節置換術 ～小経験からの術式選択と機種選択について～」 第11回浅草医師会 2008.
8. 竹本知裕:「腰痛の識別診断」 千葉県接骨師会北総支部学術講演会 2009.

教育・研究業績書

診療科名 越谷病院整形外科	職名 講師	氏名 安村 建介	大学院の研究指導担当資格 無
------------------	----------	-------------	----------------

Ⅱ 学会等および社会における主な活動

1996年7月～現在	日本整形外科学会
2000年8月～現在	日本足の外科学会
2003年5月～現在	米国整形外科学会国際会員
2003年6月～現在	日本骨折治療学会
2003年7月～現在	北海道整形災害外科学会
2004年4月～現在	東日本整形災害外科学会
2004年4月～現在	日本創外固定・骨延長学会
2005年3月～現在	関東整形災害外科学会
2008年2月～現在	日本人工関節学会

Ⅲ 研究活動

【学位論文】

K. Yasumura, K. Ikegami, T. Kamohara, Y. Nohara: High Incidence of Ischemic Necrosis of the Gluteal Muscle after Transcatheter Angiographic Embolization for Severe Pelvic Fracture. J Trauma. 58: 985-990, 2005.

【著 書】

【原 著】

和文

2. 安村建介、増田武志、菅野大己 他: Cementless stemを用いた全人工股関節置換術後の近位大腿骨骨密度の変化. 北海道整災外 49: 69-74, 2008.
3. 安村建介、大関覚: 重度脛骨天蓋骨折におけるイリザロフ創外固定器の治療成績. 骨折 30: 710-715, 2008.
4. 安村建介、大山安正、竹本知裕、菅野吉一、大関覚: セラミック人工膝関節術後10年以上の臨床成績. 日本人工関節学会誌 38: 430-431, 2008.

【症例報告】

【総 説】

【そ の 他】

和文

1. 安村建介、大関覚: 脛骨遠位端骨折. 関節外科 28: 203-211, 2009